

- 丁度良かった
- 長かった

意見記述__GPL講座開講期間・開催日に関しコメントがあれば記述願います。

5) 成果発表の感想 (自由記述)

6) 講師に対する意見 (自由記述)

7) 事務局に対する意見 (自由記述)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

Submit

Never submit passwords through Google Forms.

100%: You made it.

GPL養成講座アンケート — 会社上司

(国)名古屋大学大学院工学研究科 航空宇宙工学専攻 GPL事務局

アンケート回答のお願い

御社の今年度GPL講座受講生が、全15回／75時間の講座を受講後、会社業務に直接・間接的に成果を発揮していただけているか、あるいは受講生ご本人の会社業務への取り組み姿勢がグローバルリーダーへ踏みだすに相応しい積極的な取組みが伺えるかを会社上司の視点で、本講座の有効性を評価してください。

忌憚のないご意見・回答をお願いします。

社名

氏名

受講者氏名

受講者氏名

受講者氏名

受講者氏名

受講者氏名

日付

1. GPL講座に関する御社の取組み

1-1会社側の位置づけおよび支援

(1) GPL講座の位置付け

- 重要な教育プログラムと捉え、特に積極的に奨励
- 一般的社員教育の一つとして希望者を募集
- その他

上記で「その他」を選択した場合は理由を記入して下さい。

(2) 授業料について

- 高い
- 適切
- 安い

上記で「高い」又は「安い」を選択した場合は妥当と思われる授業料を記入して下さい

(3) 授業料に関する御社の支援

- 全額補助
- 半額補助
- 全額本人負担
- 本人負担 x %

上記で「本人負担が x %」を選択した場合はパーセントを記入して下さい

(4) 就業時間扱い

- 就業時間扱い／休日授業は休日残業扱い
- 就業時間扱い／振替にて残業扱いなし
- 就業時間扱いしない
- その他

(5) 交通費

- 全額支給
- 支給無し
- その他

(6) 開講期間について__期間75時間・全15回

- 短い (もっと深い内容まで教育することを希望)
- 丁度良い

- 長い (もっと概要でよい)

意見記述__GPL講座の御社での位置付けに関しコメントがあれば記述願います。

(7) 講座開催日について

- 今年度同様 毎週土曜日がよい
- Weekday 金曜日がよい
- Weekday その他

上記で「**Weekday その他**」を選択された場合はご希望の曜日を記入して下さい。

意見記述__GPL講座開催日に関しコメントがあれば記述願います。

1-2 御社の本講座参画の意図および位置づけに係るご見解の自由記述
GPL講座では下記の高い目標を掲げてカリキュラムを組んでいます。

- 国際設計プロジェクトリーダーとして、世界の航空機産業界とのビジネスコーディネーションを遂行できる人材の育成
- ビジネスミーティングを主導し、責任者として英語によるExecutive Summary Reportのできる能力の育成

GPL講座のカリキュラム内容を以下に示しますが、御社社員の育成方針に対し、過不足はありますか? 今後の改善点の参考としてご意見をお聴かせ下さい。

【航空機開発・プロジェクト関連】

第1回 航空機関連産業の現状課題と将来動向
第2回 航空機開発の特質
第3回 航空機の認証に関する Regulations とガイドライン
第4回 品質管理と特殊工程
第5回 商品企画と開発の流れ
第6回 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント
第7回 航空機開発手法
第8回 開発手法の傾向
第9回 プロジェクト・マネージメント
第10回 開発計画の管理
第11回 SE と Requirement Based Engineering

【International Communication 関連】

第1回 Cross Culture Communication
第2回 Presentation Skills & Exploring Culture
第3回 KAS1:Physical vs Digital Mockups
第4回 Business MGMT Skills & Exploring Culture
第5回 KAS2:Wing Skin
第6回 Meeting Skills & Exploring Culture
第7回 KAS3:Aliminum vs Composite Materials
第8回 Negitation Skills & Exploring Culture
第9回 KAS4:Spoilers
第10回 Review & KAS Set Up
第11~14回 KAS Practice in Groups
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル
第15回 成果発表

注記：KAS は know-Act-Show の略です。

2. 目標の達成度・受講評価

下記内容に関し、数値化評価をお願いします。受講生の今後の成長とご活躍のトレースをお願い致します。

a) 受講生が核となることで、御社に新規雇用が創出されましたか？ 新規雇用創出者数

b) 受講生が核となることで、御社の新規取引件数が増えましたか？ 新規取引件数

c) 受講生が核となることで、御社の売上高が増加しましたか？ 売上増加額

意見記述__御社で得られた**GPL**講座の効果等ございましたらご記入願います。

3. 成果発表を聴取されたご感想(自由記述)

4. 次年度講座に対するご要望(自由記述)

5. 事務局に対するご意見(自由記述)

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

Submit

Never submit passwords through Google Forms.

100%: You made it.

Powered by

This content is neither created nor endorsed by Google.

[Report Abuse](#) - [Terms of Service](#) - [Additional Terms](#)

参考資料2 アンケート集計結果

平成 27 年度 GPL 講座アンケート結果

受講生

アンケート回答者数

受講生全員（33 名）にアンケートをお願いした結果、下表の 30 名から回答を頂きました。

社名	受講者数	回答者数
(株) 第一システムエンジニアリング	3	2
(株) 中央エンジニアリング	2	2
シンフォニアテクノロジー(株)	2	2
トヨタ紡織株式会社	2	2
三菱重工業 (株)	2	2
株式会社 ベリサーブ	4	3
株式会社 中央図研	1	1
高砂電気工業株式会社	1	1
三菱スペース・ソフトウェア (株)	2	2
川崎重工業株式会社	5	5
川重岐阜エンジニアリング株式会社	1	1
中菱エンジニアリング (株)	4	4
東レ株式会社	1	0
富士重工業(株)	1	1
名古屋大学大学院	2	2
合計	33	30

注記： アンケートが 2 種類あるため（Word 版と Web Form）一部回答者数の合計が総数とあっていない部分があります。（2.項 講座内容および今後の活用に関するアンケートで、「教材・テキスト」と「講師」に関する質問の部分）

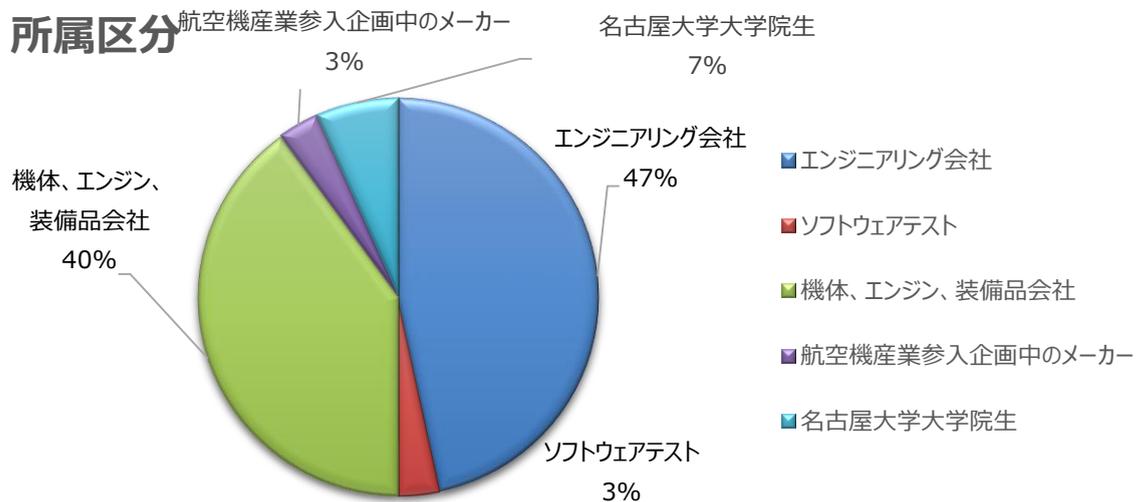
回答者 - 受講生番号

GPL27-01
GPL27-02
GPL27-03
GPL27-04
GPL27-05
GPL27-06
GPL27-07
GPL27-09
GPL27-10
GPL27-12
GPL27-14
GPL27-15
GPL27-16
GPL27-17
GPL27-18
GPL27-19
GPL27-20
GPL27-21
GPL27-22
GPL27-23
GPL27-24
GPL27-25
GPL27-26
GPL27-27
GPL27-29
GPL27-30
GPL27-31
GPL27-32
GPL27-33
GPL27-34

1. 全般情報

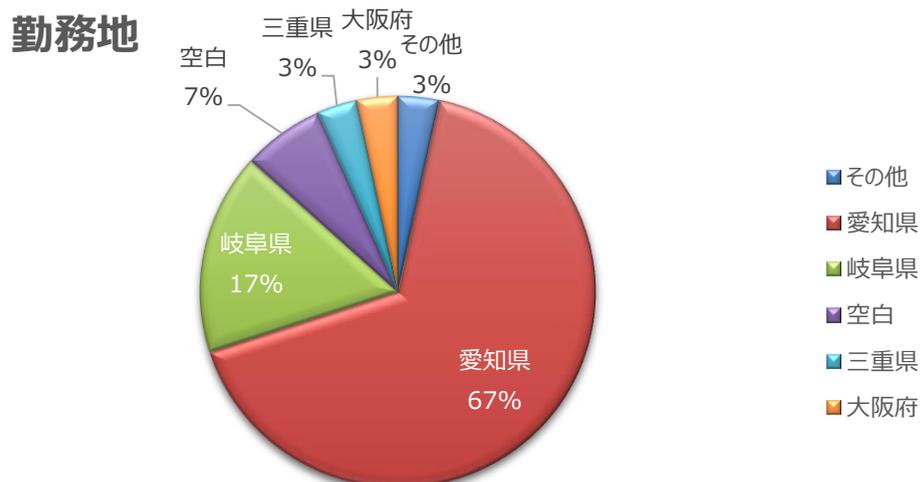
(1) 所属区分

所属区分	データの個数
エンジニアリング会社	14
ソフトウェアテスト	1
機体、エンジン、装備品会社	12
航空機産業参入企画中のメーカー	1
名古屋大学大学院生	2
総計	30



(2) 勤務先所在地（名古屋大学大学院生は回答不要：以下「■」カ所同様）

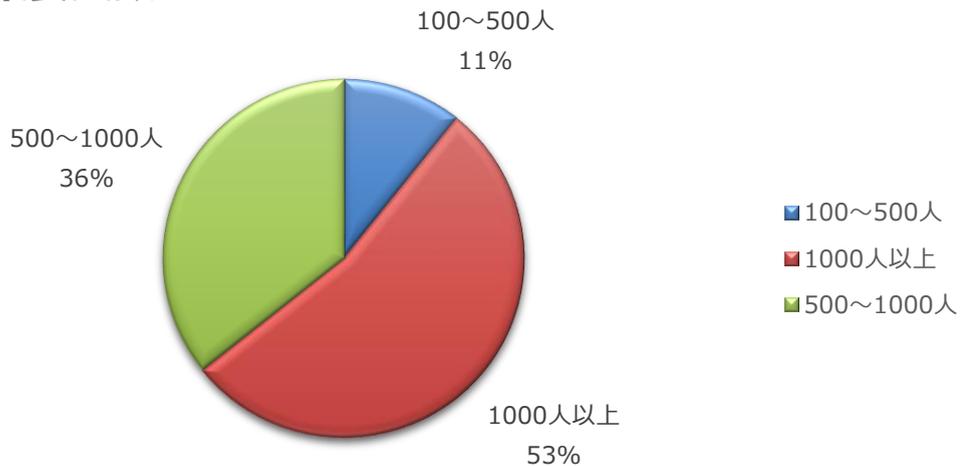
勤務先	データの個数
その他	1
愛知県	20
岐阜県	5
空白（学院生）	2
三重県	1
大阪府	1
総計	30



(3) 従業員数 (■)

従業員数	データの個数
100～500人	3
1000人以上	15
500～1000人	10
空白—学院生	
総計	28

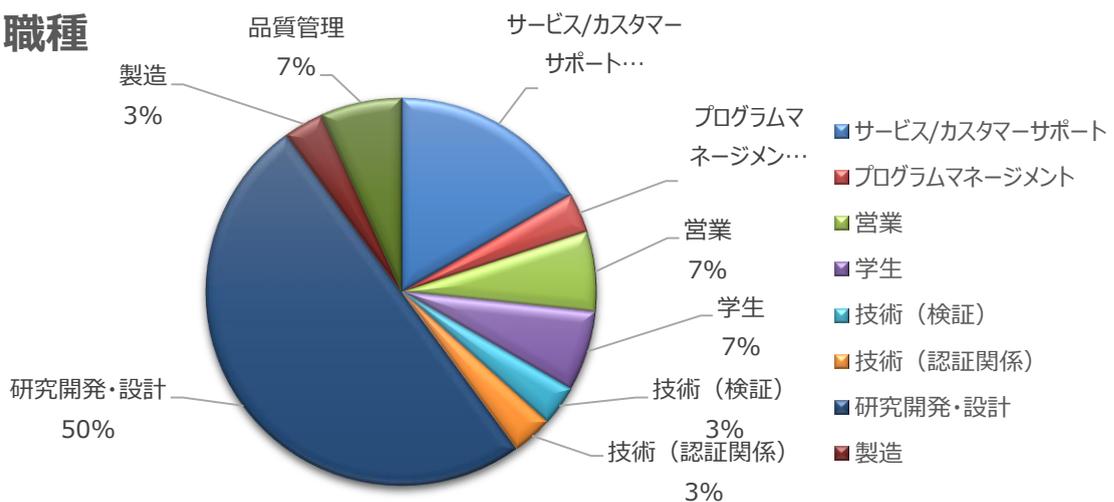
従業員数



(4) 受講生の職種 (複数回答あり) (■)

職種	データの個数
サービス/カスタマーサポート	5
プログラクマネージメント	1
営業	2
学生	2
技術 (検証)	1
技術 (認証関係)	1
研究開発・設計	15
製造	1
品質管理	2
総計	30

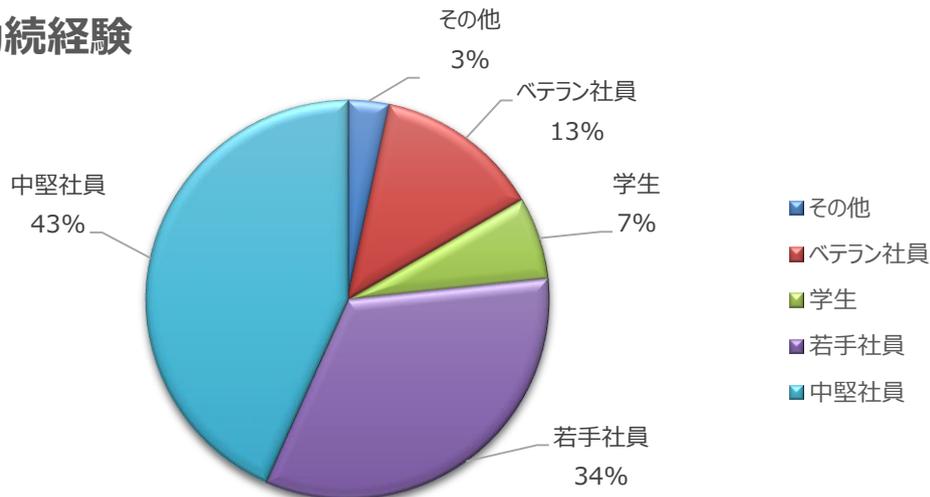
職種



(5) 勤続年数について (■)

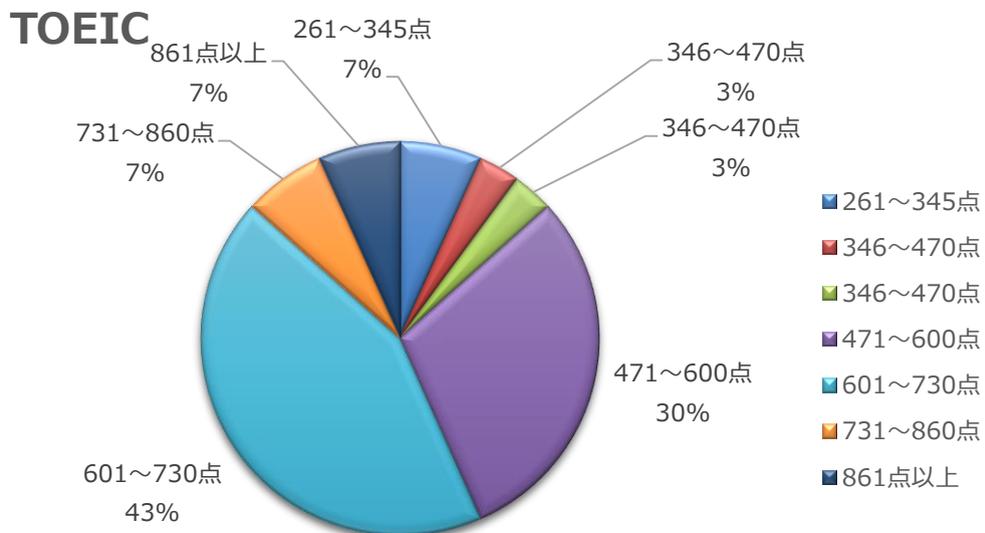
勤続経験	データの個数
その他	1
ベテラン社員	4
学生	2
若手社員	10
中堅社員	13
総計	30

勤続経験



(6) 受講生英語レベル (TOEIC 換算)

TOEIC	データの個数
261～345点	2
346～470点	1
346～470点	1
471～600点	9
601～730点	13
731～860点	2
861点以上	2
総計	30

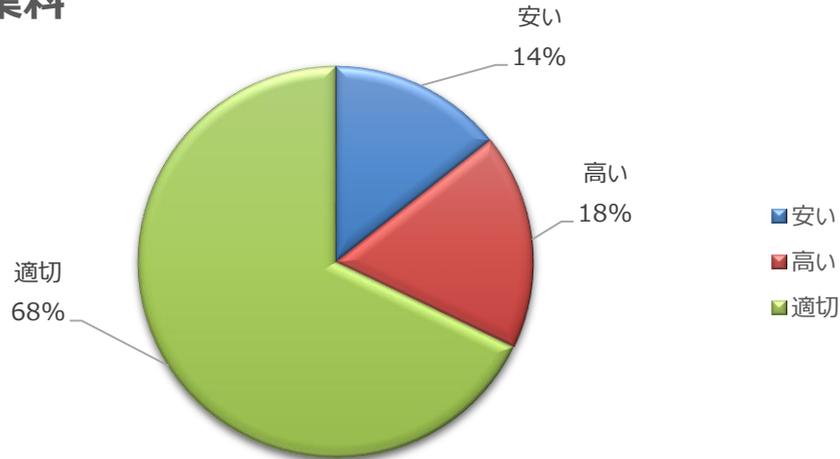


(7) ①講座に対する会社側支援について (■) 授業料 25 万円/人

授業料	データの個数
安い	4
高い	5
適切	19
総計	28

注記: 大学院生は無料

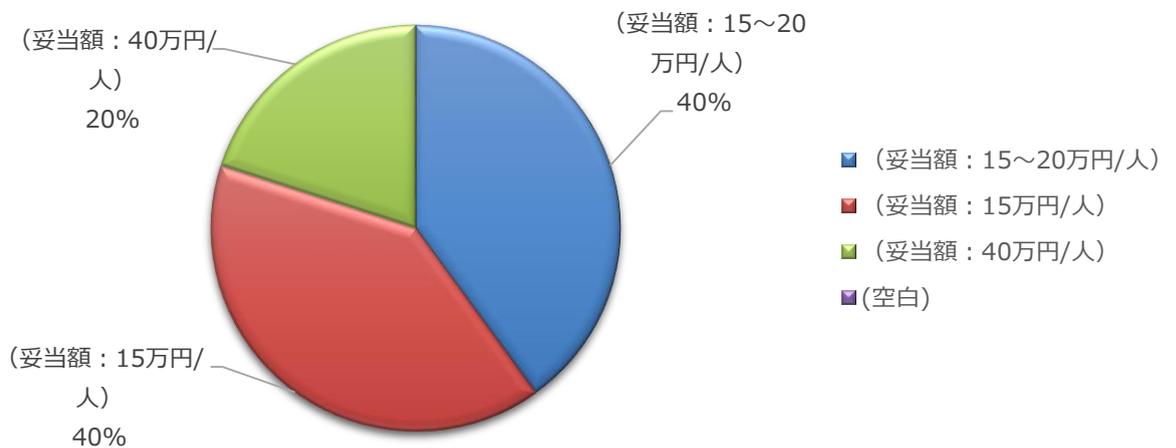
授業料



上項目で高い/安いと答えた方の中で妥当と思われる授業料提案

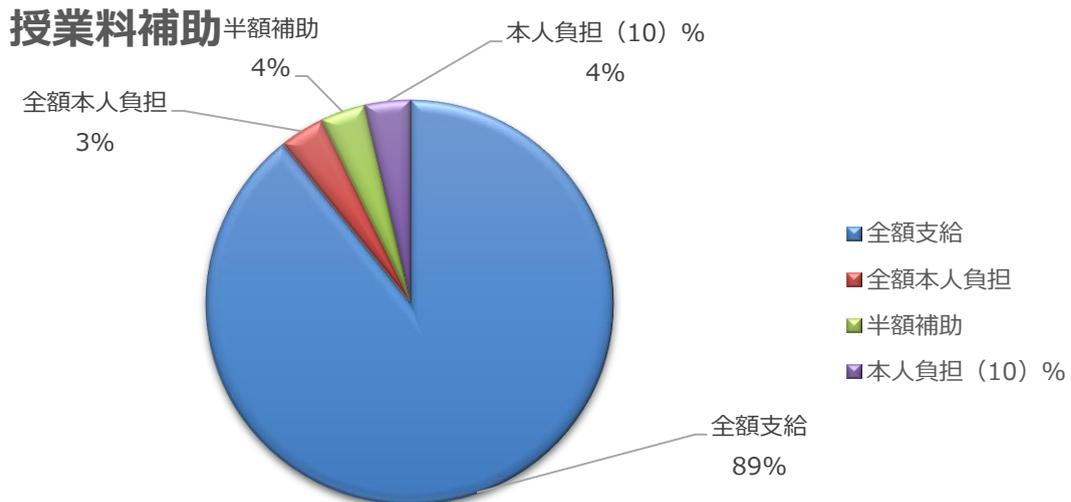
授業料提案	データの個数
妥当額 : 15~20 万円/人	2
妥当額 : 15 万円/人	2
妥当額 : 40 万円/人	1
総計	5

授業料提案



(7) ②講座に対する会社側支援について (■) 会社の支援

授業料補助	データの個数
全額支給	25
全額本人負担	1
半額補助	1
本人負担 (10) %	1
総計	28



(8) 意見記述 (1) ~ (7) までの項目に関しコメントがありましたら記述願います。

<p>受講料について: 内容と講義の時間を考慮すると一般的な他の社会人講座や英会話レッスン等の受講料と比べて非常に安いと思います。例えば、大手英会話学校に通うと、1カ月に4~6時間で3万円以上かかることも多いので、5000円/時間以上です。一方、本講座は、25万円÷(5時間/日×15日)≒3300円/時間で、専門技術も学べるので安いと考えます。</p>
<p>特にありません。</p>
<p>費用面)午前の講義はARP4756を軸に情報収集したかったことから、MRJ開発で得られた機体メーカーならではの貴重な情報が多く、非常に有益であった。午後の会議は、異文化交流のコツと失敗の理由をつかむことができ、今後役に立っていきたいと考えている。よって、費用面は妥当だと考える。</p> <p>(ビジネス英語の学習面)午前の講義は近年の電子化の流れを組み、ソフトウェア開発にも注力するとますます良くなると感じた。また、午後の講義は参加人数をもう少し減らし、ECC講師との会話時間を増やす方が良いと思われる。メインスピーカーを含め、3人のECC講師がいるのであれば、1:10でなにかしら改善できるように思う。</p>
<p>授業料はかなり安いと思います。しかし、会社からの補助がなく、本人負担で来られる方や、今後中小の企業の方にも来ていただくことを考えれば、現在の授業料は妥当なのかもしれません。</p>

2. 講座内容および今後の活用に関する質問

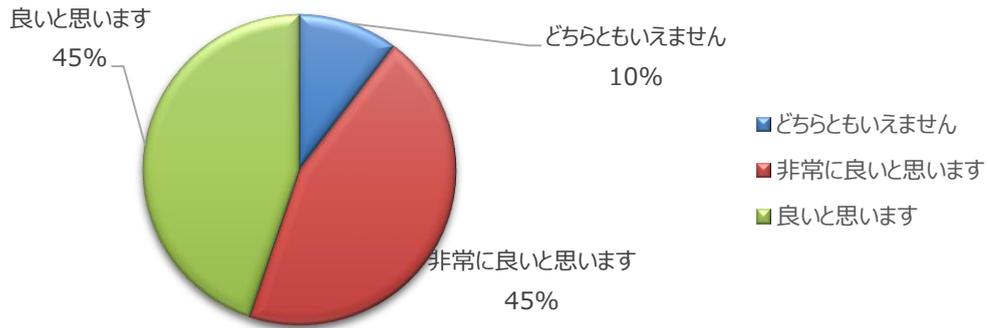
	A: 新た芯知識 や経験を多く 習得すること ができた。	B: 新た芯知識 や経験を多 少習得する ことができた。	C: 新た芯知識 は可も習得 できなかつ た。
第1回 航空機関連産業の現状課題と将来動向	21	9	0
第2回 航空機開発の特質	23	6	0
第3回 航空機の認証に関する Regulations とガイドライン	18	11	0
第4回 品質管理と特殊工程	17	13	0
第5回 商品企画と開発の流れ	21	9	0
第6回 航空機製造技術とサプライ・チェーン・マネージメント	22	7	0
第7回 航空機開発手法	21	9	0
第8回 開発手法の傾向	20	9	1
第9回 プロジェクト・マネージメント	23	7	0
第10回 開発計画の管理	21	8	1
第11回 SE と Requirement Based Engineering	20	7	2
第1回 Cross Culture Communication	23	6	1
第2回 Presentation Skills & Exploring Culture	19	9	1
第3回 KAS1:Physical vs Digital Mockups	17	11	0
第4回 Business MGMT Skills & Exploring Culture	19	11	0
第5回 KAS2:Wing Skin	18	11	0
第6回 Meeting Skills & Exploring Culture	22	6	1
第7回 KAS3:Aluminum vs Composite Materials	18	10	1
第8回 Negotiation Skills & Exploring Culture	20	10	0
第9回 KAS4:Spoilers	20	9	1
第10回 Review & KAS Set Up	18	12	0
第11~14回 KAS Practice in Groups	26	4	0
第15回 KAS Practice in Groups リハーサル	24	6	0
第15回 成果発表	28	2	0

注記：一部欠席した受講生もあり各回の総数は必ずしも回答者総数の「30」ではありません。

講座手法

講座手法	データの個数
どちらともいえません	3
非常に良いと思います	13
良いと思います	13
総計	29

講座手法



意見記述 **GPL** 講座を改善する案をお持ちでしたら記入をお願いします。

午後の英語の講義で、2～4人1組になって演習することがあったが、レベルの差でこちらが教えることもあった。演習中に先生も交じると緊張感もあり、有意義だったと思う。

① 1分間スピーチに1時間かけるのが非常にもったいないと思った。せっかく英語の講師が3人もいのであれば、3グループに分け、20分で終わらせた方がよいと思う。

② テキストの課題は減らしもっと、実践的なディスカッションを増やし、自分で考え、発表する場を増やした方がよいと思う。

③ 午前中の講義が民間機の話ばかりで、ほとんど実務の参考にならなかった。防衛装備品移転三原則にもあるように、これからは防衛装備品の輸出が本格化し、そこでグローバルな人材のニーズが非常に高まると思ので防衛関連の話をもっとしてほしい。

先日ニュースでMHIの潜水艦のオーストラリアの売り込みの話がありましたが、実際に売り込みに行った人の話を聞くと、潜水艦事業は今まで国内でしかやったことないので、英語ができる社員がほとんどいなかったとのことでした。

④ もっと少人数でやるべき。今回のような定員オーバーでも受け入れるのはやらない方がよい。

⑤ カスタマーサポートの講義もお願いします。

毎回ではないにせよ、GPLとして力点を置くテーマに関しては、一方通行ではなく、演習ベースにしたり、予習を課したりするのも良いと思います。

機体（特に構造物）の講義が主体でしたので、もう少し、装備品関係の講義を盛り込んで頂きたいと思します。

テキストは非常に専門性が高く、且つ、他の社会人講座ではなかなか得られない内容で独自性も高いもので、素晴らしいテキストだったと思います。

ただ、今の日本は航空機の機体全てを開発し、認証を得て現実の市場で飛行させる経験がまったく浅く、足りないと感じています。それにもかかわらず、このことは専門書や大学はおろか、大手企業内でもなかなか学ぶことが困難です。そのため、今後、引き続きMRJやホンダジェットのプロジェクトでの最新のご経験をどんどんご教示頂きたいと思します。

◇ 良いところ :

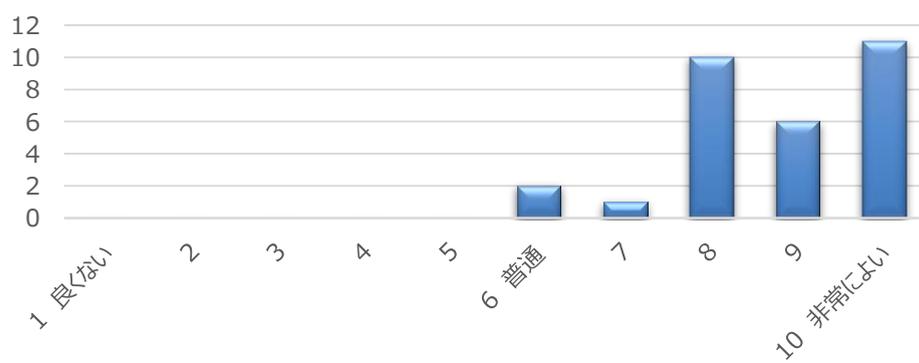
午前セッションは、講師の方の情熱というか、今よりもっと良くしたいと言う感覚が伝わってきました。私としても日々の業務を少しでも良くしたいと感じている事への拍車になったと思します。技術的な面でも、航空機業界での重要なキーワードを知ることが出来、私の知りたかったことに合致しておりました。

<p>また、PMBOK が以外と注目されていることに驚きました。ソフトウェア開発者向けの知識だと思っていたので。午後セッションは、スピーチはあぁいったシチュエーションが自分で望んでも中々ないし、いざなっても遠慮してやらないことが多いので、全ての参加者に強制的に行わせて頂いて非常に有用でした。大した事では緊張しなくなったので、今後、英語を使う場面や人前で話す場面で自己の自信になったと思います。</p> <p>◆改善点：</p> <p>講師を担当された方がやや製造寄りの方が多かった。エアライン、サプライチェーン、営業など、それ以外の部分についても意見を聞きたかったです。</p> <p>特に私自身が製造寄りの人間なので、特別にそう感じました。</p> <p>英語のテキストに関しては、ディスカッションの前提条件の説明がやや弱く、講座ないで議論をする際には、置かれている立場の状況が分からず、議論がズレることが何回かありました。</p> <p>後、英語の曲のリスニングに関しては、繰り返さなければ効果の少ないと考えるので、毎回の講座で違う曲を流すのは、あの場での勉強には多少効果が薄いと思います。指導者の意図が、あぁいった勉強法が大事だと思わせるためとは感じましたが念のため。</p>
<p>私の英語スキル（TEOIC550 点）では、ちょっと実力不足だなと感じました。</p> <p>受講生の選考をしっかりとった方が良かったかも知れません。</p>
<p>1) の回答について、第 2 回及び第 3 回の講義を欠席したので、欠席時の講義については回答していません。これ以降の講義毎のアンケートでも同様です。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・授業内で 1 minute speech に割く時間が多いように感じました。数回の授業に 1 度行う程度で良いと思います。 ・KAS に使用する資料に誤植がわかりづらい記述のために、前提条件を理解することに多くの時間を要しました。有意義に時間を活用するために、一部改定を行うか、あらかじめ先生方から十分に説明を行う必要があると感じました。
<p>ソフトウェアにかかわる部分も増やしていただけるとありがたい</p> <p>DO-178B, C など</p>
<p>1minute スピーチも良かったですが、実際の場面では、一対一で軽い打合せのような場面もよくあるので、例えば 2 人で組んで何かテーマにそって、軽い模擬打合せ? のような事をやっても良かったかなと感じました。</p>
<p>APR4754 の下位にあたる DO178/254 の理解を深めたい。</p>
<p>講座の早い段階で受講生と共同の作業を取り入れることで親睦を深めることができればなお良い。</p> <p>親睦を深めるということも外部研修としての大事な目的だともう。</p>
<p>英語を発する時間がもう少し多くてもいいように感じました。いわゆる“英会話”の講義でないことは重々承知ですが、聞いているだけの時間が幾分長かったように思います。</p>
<p>午前の部についても、理解を促進するような演習等があればなお良かったと思います。</p>
<p>Case study 時に、普段の業務で構造に関わっていない方々は、日本語でも意見を言うのが難しそうだったため、概要を説明して頂くか、あるいは参考資料等を各自事前に予習しておくようにすると、英語での議論がより活発になるのではないかと思います。</p>
<p>ECC 講師が 3 人もいるのに活用できていない。講義の一部でも全体を 3 Gr に分け、少人数制にしてはどうか。</p> <p>1Min スピーチは、人前で話す訓練としては良いと思う。が、33 人聞いていると 1H ほど使ってしまう。これも初めの内は少人数制にすれば、聞いているだけの時間が短くて済むのではないか。後半で全体スピーチにするとか。</p>
<p>私の実業務に関わる部分で、最終機体メーカーさんが装備品に対してどのような要求を</p>
<p>講座の初めにグループを作って何か成果を出すようなものがあれば、最終発表でもっとスムーズにコミュニケーションが取れるのではと考えます。</p>

カリキュラム全体

カリキュラム全体	データの個数
1 良くない	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6 普通	2
7	1
8	10
9	6
10 非常によい	11
総計	30

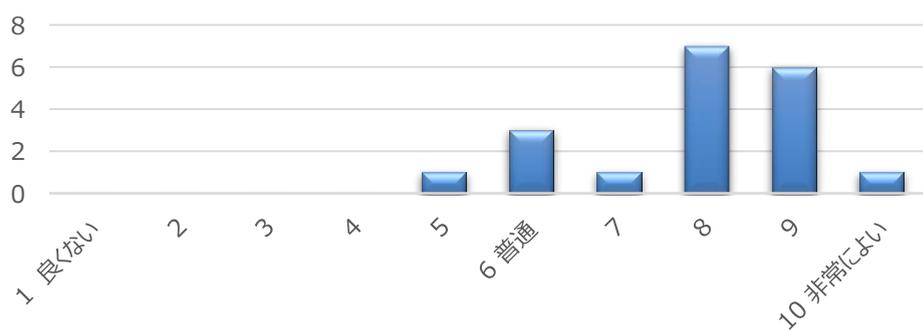
カリキュラム全体



教材・テキスト

教材・テキスト	データの個数
1 良くない	0
2	0
3	0
4	0
5	1
6 普通	3
7	1
8	7
9	6
10 非常によい	1
総計	19

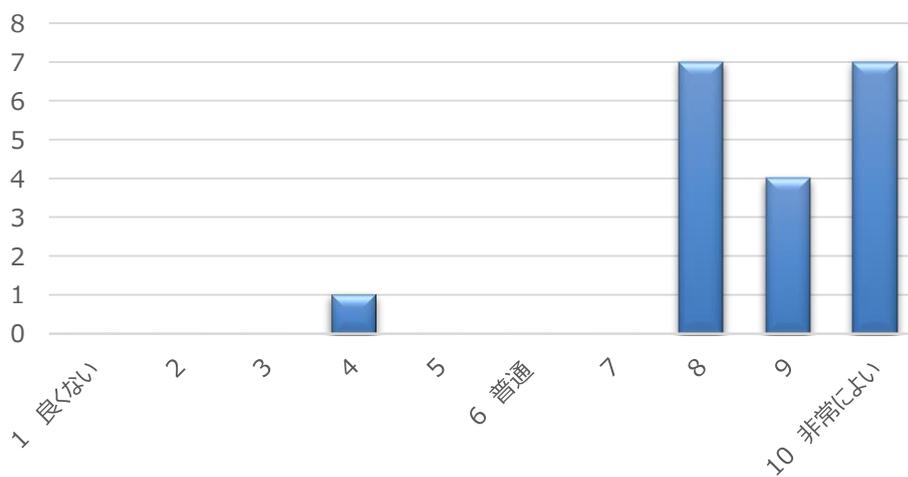
教材・テキスト



講師

講師	データの個数
1 良くない	0
2	0
3	0
4	1
5	0
6 普通	0
7	0
8	7
9	4
10 非常によい	7
総計	19

講師



意見記述 カリキュラム・テキスト類・講師についてコメントがあればご記入願います。

三菱系の講師ばかりだったため、他の企業の方の意見も聞きたかった。
テキストは講師が使用するパワーポイントのみではなく、講義内容をまとめた文章化されたものがあればいいなと思いました。予習も復習もしやすくなるのではないのでしょうか。
航空機器の全体像の知識を得ることができた。 これだけ体系的に学べる機会は少ないので、非常に参考になった。 また、英語に関しても英会話だけでなく、コミュニケーションや交渉について学ぶことができたので、非常に勉強になった。
昨年までの資料をまとめた分厚い冊子は DVD 等でのデータ配布が良いと思います。（重いし、場所もとるし。）
テキストは上級者向けとのことですが、読むだけではわからないと感じる場所が多かったので、全体的にもう少しレベルを下げてはどうかと思います。
下名は開発保証（ARP4754, DO-178B）の業務に従事してきましたし、プロジェクトマネジメントについても多少知識と経験がございますので、微力ながら、何かお手伝いさせていただければと思います。 両者ともに、今年度の受講生からも多くの質問が出ていましたので、実務経験に基づいた話ができるかと思えます。 ぜひ、ご検討ください。
もう少し技術的な会話で使える例文もあって良かったと思いました。
テキストがかさばってしまうので、デジタルでも配布して頂けると助かります。
International Communication のクラスに関し、1 分間スピーチを行うことは非常に良いことだと思うが、今回の講座では受講者が多く 1 分間スピーチで時間を使いすぎていたと感じる。受講者が多い場合は、複数グループに分けて実施する等して時間を短縮出来るのではないか。
カリキュラム、テキスト類の内容については、専門性の高さ、独自性の両方で非常に良く、ありがたいものでした。 また、講師の方々も林先生をはじめ、MRJ や B787 という最先端の機体を取り扱われたご経験のある方ばかりで、実際の現場で苦労された点も説明して頂き、非常に貴重な講義でした。 ただ、テキストは携行するには重量が重いものでしたので、テキストの各ページをバインダー式にし、受講生が各受講日に必要なページのみ持っていけるようにして頂くというのはいかがでしょうか。
GPL 講座を改善する案にて記載しました。
テキストが古く、スクリーンの内容と違うケースが多々あったので、 テキストを最新版に維持管理してほしい。
Regulation を全てカリキュラムで網羅するのは難しいが、例えば E W I S であつたり D O 1 6 0 などにもう少し掘り下げて良かったと思う。テキストは非常に作りこまれていて良かった。
テキスト内容を変更されている先生方がおられたので、事前印刷物の冊子供給ではなく、ファイリング形式にして、前週もしくは当日に該当授業の資料を配布したほうが良いと感じました。（その方が持ち運びの分だけ軽くなりますし）
なし
非常に充実していて良いものだと感じました。テキストは非常にボリュームがあつて GPL 研修が終わった後も使用できるものだとおもいます。ありがとうございます。
テキストの電子化を強く希望します！（紙の利点を覆い隠してあまりある重量と体積なので）
林先生が MHI で蓄積されてきた各種技術ノウハウを教えて頂き、大変感謝しています。 英語の教材も我々航空機産業に特化したものを特別に準備していただき、非常に役に立ちました。
講義では、テキスト内容説明だけでなく、講師の方々の成功例や苦労話等の様々な経験について話して頂き、大変興味深く、勉強になりました。可能であれば、MHI/三菱航空機以外の方の話も聞いてみたいと思いました。 また、航空機構造への複合材使用率が増加してきているため、複合材構造開発手法（Building Block Approach、構造強度試験）について触れてみて良いのではないかと思います。
テキストはプレゼン資料的なものではなく、（詳しく書いてある）教科書的なものが欲しい。数か月後もしくは、

<p>業務で必要になった時に、読み返してみてもすぐ理解できるものがあると有難い。講師はプロフェッショナルな方々でとても参考になりました。特にプライムとしての TC や外国企業との取引の経験者は KHI では少ない？ のでとても参考になった。</p>
<p>実際に第一線で仕事をされている講師の方からお話を伺えたのはとても良い経験になりました。特に、実業務中での苦労話は自社業務ではめったに聞くことができませんので、非常によかったです。私の会社は新規参入を目指していることもあり、もし可能であれば、最終機体メーカーの調達立場からサプライヤ選定の基準や方法、障壁など、聞ければありがたいと思いました。</p>
<p>英語の講義での KAS の授業(ネゴシエーションの模擬会議)がよかった。 英語でのネゴシエーションにおける立ち回り方が理解できた。また、どのように会議を進めていけばよいのかもわかった。</p>
<p>航空機業界の全容が見える資料であるため、非常に参考になります。</p>